

4000万人の頭痛 144

千夜一夜の頭痛物語

最近、中年女性患者さんでしばしば遭遇する雷鳴頭痛 その1
可逆性脳血管攣縮症候群 (Reversible Cerebral Vasoconstriction Syndrome : RCVS)

文 清水俊彦

text by Toshiko Shimizu

今回は最近経験した可逆性脳血管攣縮症候群 (RCVS) の2例目の患者様のお話です。

この女性の元来片頭痛持ちで受診されていたのですが、約1週間前から家庭内のトラブルで寝付きが悪くなりイライラすることも多かったせいか、以前の片頭痛とは異なり、毎日頭痛が起こるようになり、特に入浴時に頭痛が強くなるなどの恐怖心から入浴を控えていたようです。この入浴時に増悪するとの一言がなければ、家庭内トラブルにより脳の興奮性が高まり、本来の片頭痛が慢性化したためであるとの安易な判断から脳の興奮性を抑制する予防薬を増量するのみの対処で済ませていたかもしれません。また、この患者様を詳細に問診したところ、女性ホルモンであるエストロジェンのような働きをするイソフラボンを含有する豆乳飲料を連日飲用していることが判明しました。

前回も述べたように、このRCVSの明らかな病態は未だ不明ですが、更年期の女性

患者様に多発することから、女性ホルモンの変動が関与している可能性が高く、この自然の女性ホルモンの経年性的変動にイソフラボンが何らかの影響を及ぼしている可能性は否定できません。入浴による急激な体温変化や感情的な刺激により脳血管内の血小板からの急激なセロトニンの放出による脳血管の収縮など、複数の因子が絡み合っ

て起こる、未だ明らかな原因が不明とされているこのRCVSは、あたかも雷が落ちる時のように突然、瞬時の痛みとして起こることから、雷鳴頭痛 (Thunder clap headache) と呼ばれていたのです。原因が不明なゆえ、当然ながら、確立した治療法はないのですが、一般的には血管拡張および血管安定性のある片頭痛予防薬であるカルシウム拮抗剤のロメリジン塩酸塩 (商品名・ミグシス) やほぼ副作用のない最新の片頭痛予防薬である抗CGRP抗体剤の注射剤などを予防的に処方、発作時には脳血管を収縮させるトリプタン製剤は禁忌であるため、通常の非ステロイド系消炎鎮痛剤もしくは最新の片頭痛発作頓挫薬で脳血管には一切作用せず片頭痛の大本の指令センターである三叉神経核内にあるセロトニン1F受容体のみ選択的に作用するラス

ミジタン (商品名: レイボ) を処方し、脳血管が正常状態に戻ることを月ごとにMRI検査で観察を続けるのです。いつもの片頭痛と思いきや、重大な異変がその背後に潜んでいることもあり、脳に同じ瞬間などないことを常に念頭に置いて診療に当たらないの

です。

Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、学校法人東京女子医科大学 評議員、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーフケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すぎの木クリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クローズアップ現代」など、テレビ出演も多い。「頭痛女子のトリセツ」(マガジンハウス)をはじめ、頭痛関連の著書多数。



新刊「マンガでわかる 頭痛・めまい・耳鳴りの治し方」
監修/清水俊彦 推薦/佐渡島龍平
新紀元社 (1,100円(税込)) 販売中。



50歳代の元来片頭痛女性のRCVS MRA画像
以前のMRIを用いた血管造影では右中大脳動脈M2部位と前大脳動脈分枝部には異常はみられなかったが(黄色丸印)今回同部位に明らかな血管攣縮を認める(赤色丸印)。